

# 山麓探偵団通信

9月号

気温変動の夏を、みなさんどうお過ごしでしょうか？ 人間が体調管理に苦労しているのと同じように、自然界の動植物たちも、あらゆる器官を酷使して、この気象を乗り切るうとしていることでしょう。

## ■ 特別寄稿

（今回は、自然細密画家の木村修さんにお願ひしました）

少し大きい地震が来るたびに、いつもそうなのだが、三月十一日のこの時も、揺られながら、少年時代の新潟地震が脳裏をよぎった。家族みな外に飛び出し、やがて立っていらなくなり、大人も子供もぺたぺたと腰を落としてしまったのだった。まるでフィクションの様な、今回のあの津波の映像を見ても、大自然の猛威の中では、人間は何もできず、その大きな渦に巻かれ、流されていくだけである。

そして、自然災害はこれで終わるかと思われた後に起きた“原発事故”、今度は人災とも言えこちらの人が深刻かもしれない。殆どの人が思っていたであろう一抹の不安、日本の原発、何かあった時は本当に大丈夫？それが現実のものとなった。

かと言って手のひらを返すように、大きな声を上げ「原発反対」とは言えない。今迄あまり考えずに、電気を使ってきた一人でもあるからだ。子供の頃の、我が家の生活を思い出した。明かりは裸電球、冷蔵庫、やがてテレビと洗濯機が入り、電球が蛍光灯へと変わり、文明の発達と共に年々、電化製品が溢れてきた。

このまま文明の発達、進化和、人類はどこに向かつて行くのだろうか。ただ人間が地球の癌にならないことを祈る。しかしあと50億年もすれば、地球も太陽の膨張に飲み込まれ、消失してしまう宇宙の流れに抗うことはできない。もし人類がその時代にまで繁栄していたとしたら、銀河の渦のなか、太陽系の反対側の星にでも移住しているだろうか、はたまた果てしなき宇宙の他の星雲のどこかに行くのだろうか。叶うものなら人類の終焉を、この目で見たい。今の私は生ある限り、大自然の営みを描くだけである。

木村 修

## ▼七月の探偵団参加者の感想文

今回、埼玉大学の林正美先生をお迎えしての昆虫シリーズ第3回、昆虫写真が趣味の私は、初めての参加となりました。

参加者は総勢十四名で、先生が準備して下さった資料について一通りの説明を受け、気になる虫を採集

して、じっくり観察するということで、容器と袋を持つての出発です。出発してすぐ、ほっそりとしたアワブキの幹の木の葉上に、図鑑で見覚えのある二本の角のある芋虫を見つけました。スミナガシという蝶の幼虫です。今まで、山梨県の市川や身延の森を探しまわって見つけられなかった種類が、あっさり見つかってしまいました。

昼食時、先生から今年ハセミの羽化が遅れていることを教えられ、その原因が春先の低温にあるらしいことを聞きました。また、気温が低いと、脱皮（羽化）の成功率が下がるという興味深いお話がありました。つまりセミにとつて脱皮して羽化をするということは、命がけの作業であつて、失敗は死に等しく、それを避けるために、慎重に日を選ばなければならぬのです。

もつとも印象に残っているのは何と言つてもアザミ類につくオオヘリカメムシ。帰宅後、改めて手持ちのカメムシ図鑑で調べてみると他にはイチゴ類やフキにもつくらしい。あの大きな黒い姿は本当に印象的です。

虫を知る上で、採集と観察は必至で、さらに多くの目で探すと、見つけにくい生き物たちも、次々と見つかつて、自分の視野も広がります。山麓探偵団に参加する意義は、そこにあると感じました。またぜひ参加したいと思ひます。(T・K)

## ▼特報 第2弾！

林正美先生の編著による「日本産セミ科図鑑」が、先生により探偵団にご寄贈いただきました。詳細解説、形態、生態写真、鳴き声分析図、全種鳴き声CD付きで、誠堂堂新光社より定価四千六百円で発行されたばかりの、わくわくするような図鑑です。あみんの書棚に蔵書としてありますので、どうぞみなさん、手にとつてゆっくりご覧ください。きっと、あなたも、しばしのあいだ、別世界にとんでいけます！

## ◇ 九月の探偵団活動ご案内

九月二十二日(木)の一日ですが、伊藤浩美カメラマンに、野尻草原を案内していただきます。

- ・ 朝九時三十分 あみん集合
- ・ 参加費 2300円
- ・ 持ち物 昼食・マイカップ・雨具・ポケット図鑑などは任意

尚、十月は、二十日(木)、二十二日(土)に宝永山山頂を、伊藤浩美カメラマンを団長に、案内していただく予定です。

発行 山麓探偵団 事務局  
山梨県山中湖村平野一六九八  
電話 〇五五五・六五・七〇二三